令和5年度

全国学力・学習状況調査

松伏町分析結果

松伏町教育委員会

１．調査の概要

（１）　調査の目的

〇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

〇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

〇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（２）　調査の対象

小学校６年生、中学校３年生

（３）　調査の内容

①教科に関する調査

・小学校調査：国語、算数

・中学校調査：国語、数学、英語

②質問紙調査

・児童生徒に対する調査

・学校に対する調査

（４）　調査の方式

悉皆調査

（５）調査の期日

令和５年４月１８日

（６）調査を実施した学校

	対象学校数	学校数（実施率）
小学校	３校	3校（１００％）
中学校	2校	2校（１００％）

令和５年度及び過去の全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料については、下記の国立教育政策研究所のウェブサイトにてご覧いただけます。
（国立教育研究政策研究所リンク）

国立教育研究政策研究所　教育課程研究センター「全国学力・学習状況調査」

国立教育政策研究所
NIER

２．教科に関する調査結果

≪　概要について　≫

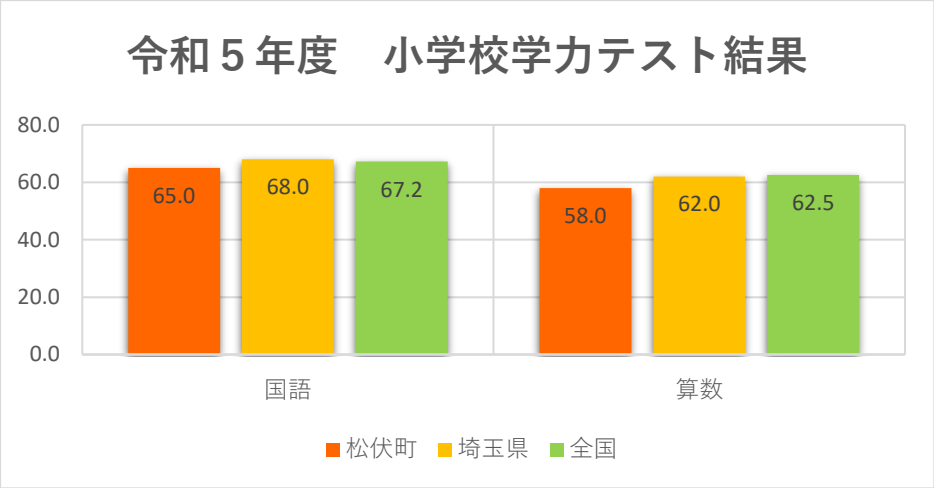
（１）埼玉県との比較について

小・中とも埼玉平均を下回っています。（%）
小学校　【国語】－３　　【算数】－４
中学校　【国語】－７　　【数学】－７　　【英語】－９

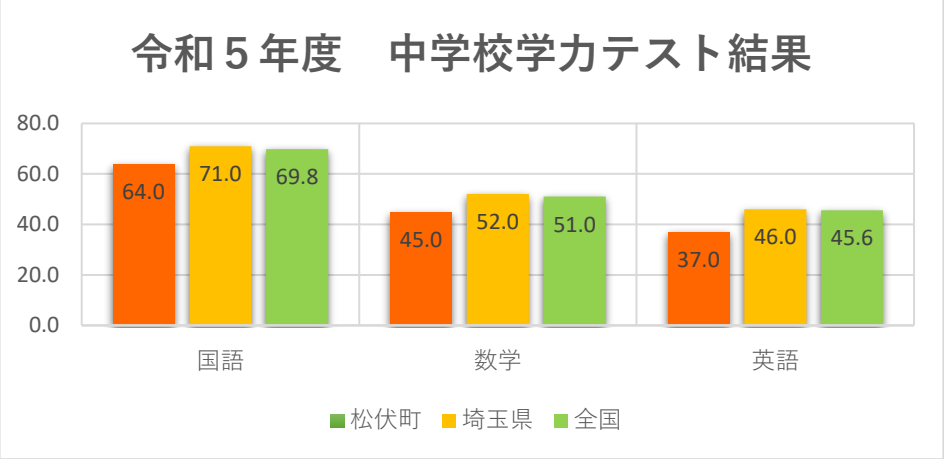
（２）全国との比較について

小・中ともに全国平均を下回っています。（%）
小学校　【国語】－２．２　【算数】－４．５
中学校　【国語】－５．８　【数学】－６．０【英語】－８．６

（３）小学校６年生平均正答率（%）

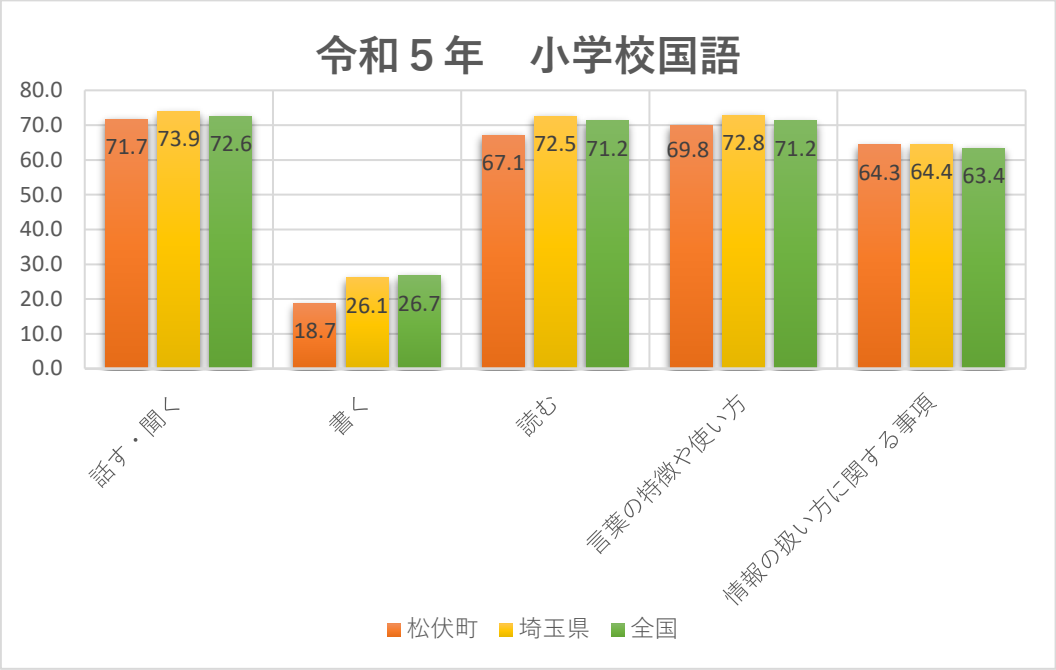


（４）中学校3年生平均正答率（%）



３．教科に関する調査結果（小　国語）

≪　小学校国語について　≫（%）



（１）領域別平均正答率の結果について

「情報の扱い方に関する事項」に関しては全国を上回りました。「書く」に関しては、全国の平均正答率と比べ８．０％下回る結果になりました。

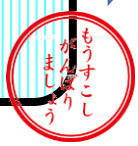
（２）設問別平均正答率の結果と課題等について

全１４問中、３問が埼玉県を上回り、４問が全国を上回っています。

情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる問題。
【設問２（３）情報の扱い方に関する事項】
で全国の平均を上回りました。

更なる向上を目指して

図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題。
【設問１（２）書くこと】



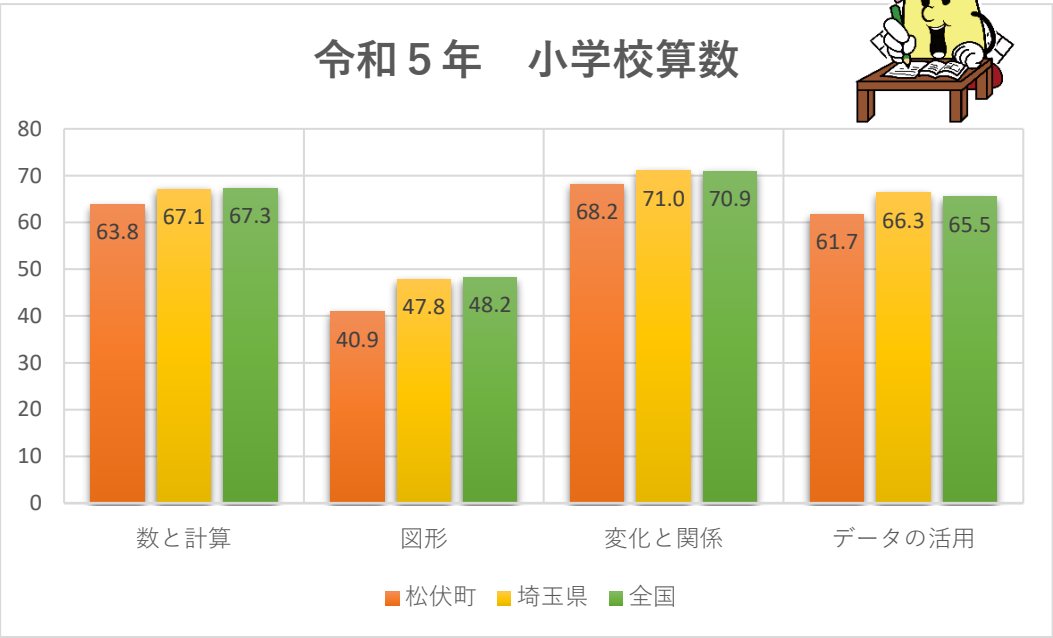
指導のポイント

① 文章を記述する場面では、友達と助言し合いながら、児童自身が自分の文章を何度も見直したり、書き直したりできるように指導することが大切です。
②児童の学習の状況に応じて、教師が、図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を提示することが効果的です。特に、複数の文章を比べる際に、図表やグラフなどを用いることで、自分にとっても考えを深めやすく、相手にとってもよく理解できるものになることを実感できるようにすることが効果的です。

【参考】令和５年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイディア例
国立教育政策研究所教育課程研究センター

３．教科に関する調査結果（小　算数）

≪　小学校算数について　≫（%）



（１）領域別平均正答率の結果について

全領域で全国及び埼玉県の平均を下回る結果となりました。「図形」に関しては、全国の平均正答率と比べ、７．３%下回る結果となりました。

（２）設問別平均正答率の結果と課題等について

全１６問中、１問が全国及び埼玉県の平均を上回っています。

伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができるかどうかをみる問題。
【設問１（２）変化と関係】
で全国及び埼玉県の平均を上回りました。

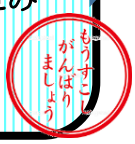
指導のポイント

①底辺の長さが等しいとき、高さの具体的な長さが分からなくても、高さが等しいと分かれば平行四辺形の面積は等しくなることを実感を伴って理解できるようにすることが大切です。
②三角形や平行四辺形の面積の公式についての理解を深め、底辺の長さが等しいとき、高さの具体的な長さが分からなくても、高さが等しいと分かれば三角形や平行四辺形の面積は等しいと実感を伴って判断できるようにすることが大切です。

【参考】令和５年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイディア例
国立教育政策研究所教育課程研究センター

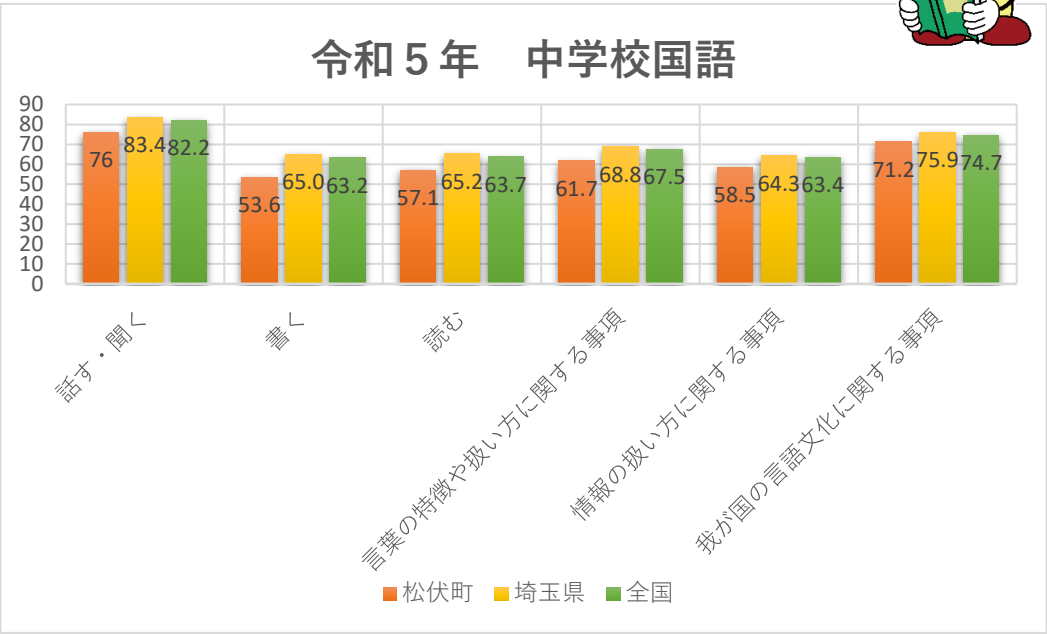
更なる向上を目指して

高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題。
【設問２（４）図形】



３．教科に関する調査結果（中　国語）

≪　中学校国語について　≫（%）



（１）領域別平均正答率の結果について

全領域で全国及び埼玉県の平均を下回る結果となりました。「書くこと」に関しては、全国と比べ９．６％下回る結果となりました。

（２）設問別平均正答率の結果と課題等について

全１５問中、１問が埼玉県、２問が全国を上回っています。

①目的や場面に応じて質問する内容を検討することができるかどうかをみる問題。
【設問１（１）話すこと・聞くこと】
②歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる問題。
【設問４（１）我が国の言語文化に関する事項】
で全国の平均を上回りました。

指導のポイント

①聞き取ったことを基に自分の考えをまとめる際には、聞き取った話の内容と自分の経験や考えとの共通点や相違点などを見いだすことが大切です。そのためには、必要に応じて質問したりメモを取ったりしながら聞くことで、話の内容を正確に理解することが必要です。
②推敲する前と後の文章を比較し、書き換えた理由や意図を説明する学習活動が考えられます。その際、叙述の仕方などを直したことで、伝えようとすることが十分に書き表されているかなどを、読み手の立場に立って確かめることが大切です。

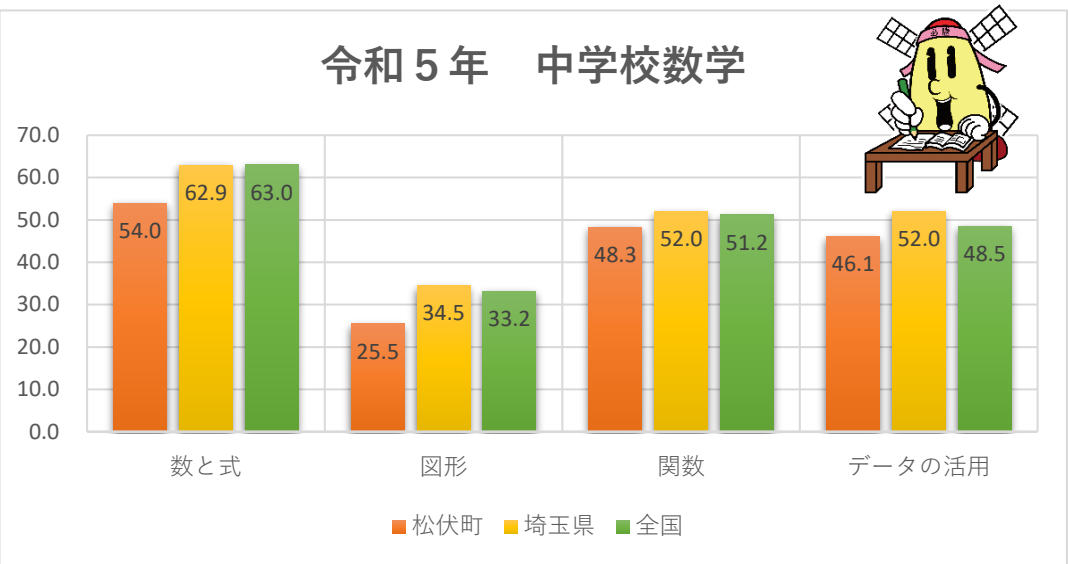
【参考】令和５年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイディア例
国立教育政策研究所教育課程研究センター

更なる向上を目指して

① 聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題。
【設問１（４）話すこと・聞くこと】
② 読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる問題。
【設問３（１）書くこと】

３．教科に関する調査結果（中　数学）

≪　中学校数学について　≫（%）



（１）領域別平均正答率の結果について

全領域で全国及び埼玉県の平均を下回る結果となりました。特に「数と式」は全国よりも９．０％下回る結果となりました。

（２）設問別平均正答率の結果と課題等について

全１５問中、２問が全国と同じ正答率となっています。

①問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる問題。
【設問６（１）数と式】
②事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかをみる問題。【設問８（２）関数】

たいへんよくできました

更なる向上を目指して

①目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる問題。
【設問６（２）　数と式】
②四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる問題。
【設問７（１）　データの活用】

もうすこしがんばりましょう

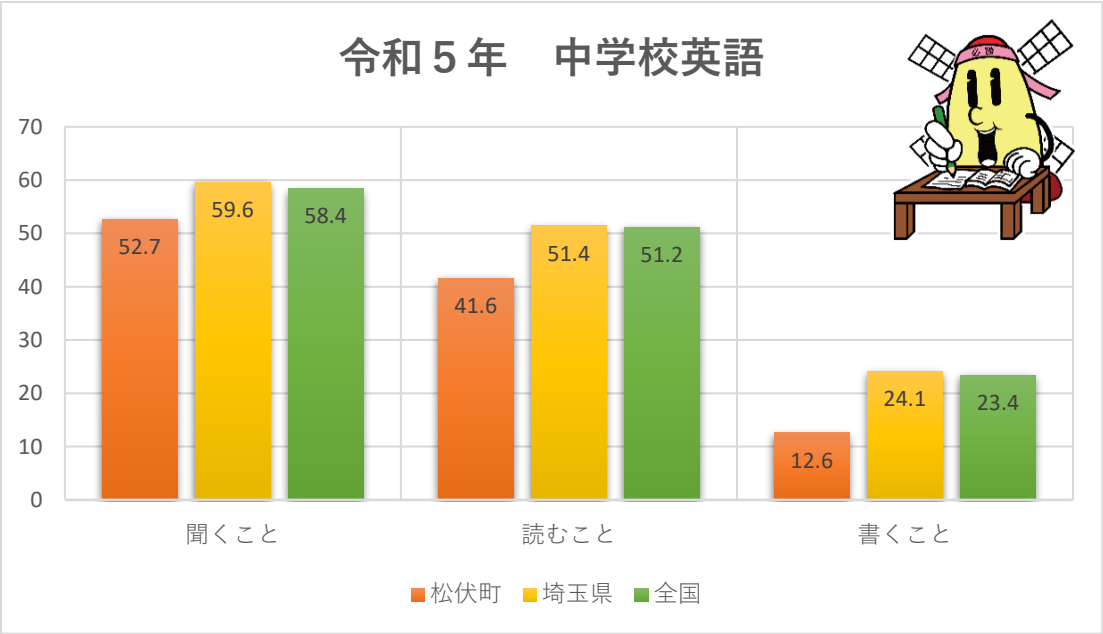
指導のポイント

①ある事柄が成り立つかどうかを文字式を基に判断したり、文字式の計算の過程や結果を事象と関連付けながら、ある事柄が成り立つための条件を見いだしたりする活動を設定することが大切です。
②データを収集して分析し、それを基に分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断するとともに、その理由について説明し合う場面を設定することが考えられる。その際、自分が判断した事柄とその根拠について、数学的な表現を用いて説明できるようにすることが大切です。

【参考】令和５年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイディア例
国立教育政策研究所教育課程研究センター

３．教科に関する調査結果（中　英語）

≪　中学校英語について　≫（%）



（１）領域別平均正答率の結果について

全領域で、全国及び埼玉県の平均を下回る結果となりました。特に「書くこと」は全国よりも１０．８％下回る結果となりました。

（２）設問別平均正答率の結果と課題等について

全１７問において、全国を下回っています。

情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる問題。
【設問１（１）（２）　聞くこと】
で全国の平均にあと一歩の数値でした。

たいへんよくできました

更なる向上を目指して

「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる問題。
【設問９（２）　書くこと】

もうすこしがんばりましょう

指導のポイント

①言語の働きを理解し、場面や状況に応じて表現を使い分けるためには、言語の使用場面やコミュニケーションを行う相手との関係性を意識し、場面や状況に応じた適切な表現を選択することが重要です。
②学習活動を行うに当たっては、実際のコミュニケーションにおいて複数の表現を取り上げた上で、使用した表現を共有し、分類や比較を通して表現がもつ言語の働きを考えることが大切です。

【参考】令和５年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイディア例　国立教育政策研究所教育課程研究センター